

教員向けデジタル表現テクニックセッション

卒業記念CDの制作をゴールにして、 メディア活用のスキルを高めよう

はじめに

この報告は、子供たちにメディア活用のスキルをつけさせるための教師の手立てについての報告ですが、教師のための表現テクニックについてのものではありません。あしからず。

結論

卒業の記念にCDアルバムを制作するという実践をよく聞くようになりました。しかし、卒業間際の3学期にその活動をするだけではもったいないと思います。4月当初から1年後（または2年後）の記念CD完成に向けて、見通しをもった活動を続けていけば、日常的な活動を通して、子供たちのメディアを活用するスキルが自然に高まるのです。



【私たちのCDアルバムができたよ。】

実践事例

1 計画

	第1フェーズ (5年1学期)	第2フェーズ (5年1・2学期)	第3フェーズ (6年1・2学期)	第4フェーズ (6年3学期)
・ねらい	CDアルバム作成の意義 作成に向け意欲と見通しをもつ。最も基礎的なスキルを習得。	種々のソフトを試用しながら、デジタルデータを作成・保存する経験を蓄積。	目的や内容に応じて、自分で選択しながらデジタルデータを作成。新しい技能の習得。	アルバムにまとめるためにデータの取舍選択や、体裁を整える最後の編集作業。
・ネットワークに関するスキル	ファイル/フォルダ操作	LANについての理解	ネットのマナー・ネチケット	
・画像、動画に関するスキル	デジタルカメラの撮り方・画像ファイル操作		画像の合成や加工	動画の加工
・ソフト活用	デジタル学級日記	いろいろなアプリ経験	目的に応じて自分で選択	編集用ソフト

2 経過

- ① 5年生の4月、担任した子供たちに昨年度のCDアルバムを見せます。「みんなも卒業するときにはこんなアルバムが作れたらいいね。」トップページの下には、「写真集」「図工の作品」「勉強のま

とめ」「総合の発表」「学級だより」「学級日誌」といったフォルダがあります。いくつか写真を見せませんが、教師の方から全部は見せません。子供たちから、「学級日誌ってどういうこと？」というような疑問が出てくるのを待ったためです。「何だろう？」という疑問が、「見てみたい」という関心につながり、それが「へえ、こんなこともできるんだ。」という驚きになり、さらに「自分たちもやってみたい」という意欲につながります。教材との出会わせ方と同じです。

一通り内容を確認した後、「みんなはどんな記録を残したい？」と聞きます。子供たちに自己決定させるためです。2年間継続して取り組むためには、まずはじめに、「自分で決めたことだから」という思いをもたせることが必要です。これから蓄積していくコンテンツの内容をはじめに決めてしまいます。(もちろん、途中でどんどん種類が増えていきますが。)

- ② はじめに、学校のサーバの学年の領域に、子どものマシンからもアクセスできるクラス専用のフォルダを作り、フォルダの意味と作り方を指導して、その中に児童一人一人の個人用フォルダを作らせます。自分の画像やデジタルデータを貯めておくためです。デジタルカメラのデータやパソコンで作成したデータを保存する方法は一度だけ指導すれば、あとは子ども同士で助け合いながらなんとかし、そのうちにみんなできるようになります。また、しばらく放っておくと、内容を整理するためにフォルダの中にフォルダを作る階層構造などを自然に理解します。
- ③ 教師は定期的にバックアップをとっておきます。誤って削除したり移動してしまったりすることがあるからです。そうした機会を捉えて、セキュリティの大切さやデジタルデータの性質などを指導します。また、故意に友達データのデータにいたずらするようなことも起きるので、モラルやネチケットについても指導します。
- ④ 保存コンテンツの一つとして、学級日記はパソコンで作ります。中に「今日の一枚」画像を必ず入れるのですが、翌日の朝、パソコン画面やプロジェクタで日誌をみんなに公開するので、下手な写真や文章には他の子供たちから注文が付くため、カメラの扱いや写真の撮り方もだんだん上手になります。また、2ヶ月ほどでみんな、LAN上で自在に画像ファイルを動かすことができるようになります。
- ⑤ 図工の作品は、必ずデジタルカメラで写しておくようにします。みんなの分を集めて校内ホームページ上に「デジタル・ミュージアム」を開き、全校のみんなに見てもらおうようにすると、思わぬ所から反応が返ってきたりします。教師の方で、背景と作品を合成したりすると、興味をもって「やってみたい」と言い出す子が出てきます。
- ⑥ それぞれのコンテンツの作成についてはその都度指導しますが、5年生が終わる頃には、特に指示しなくても、必要に応じてパソコンを使い、自分で考えてデータを保存するようになります。
- ⑦ 学期に1回程度は、一斉にフォルダの内容を整理したり点検したりします。中には、インターネットからアイドルの画像などを山のようにダウンロードしてため込んでいる子がいたりします。サーバのHDDの容量と個人フォルダの容量などの関係について指導したり考えさせたりします。さらに、画像のファイルサイズなどについても、疑問をもつ子には教えます。
- ⑧ また、学期末には、撮り貯めた画像や作品を使い、写真と文でその学期を振り返るまとめをさせます。デジタルデータは再利用や加工が容易であることに気が付かせるためです。特に「総合的な学習の時間」については、こうした振り返りを行うことによって、自分の活動の成果と課題に気づかせることができ、次の活動への見通しをもたせやすくなります。
- ⑨ 6年の3学期には、卒業文集の編集委員と同じようにCDアルバムの編集委員も選び、2年に渡って蓄積してきたデータのセレクトやトップページの作成などを行います。一人一人の個人用フォルダの中は、各人が責任をもってセレクトします。大切な情報を選び取る力が最後に試されるわけです。
- ⑩ 実は、今まで述べてきたことの「教師」を「校内の教育情報化リーダー」に、「子ども」を「情報教育初心者教師」に置き換えてみると、「はじめに」で、そうではないと断ったにもかかわらず) 案外に教師向けのお話にもなっているかもしれません。要は、スキルを身につけさせるためには、必要感や目的意識がなくてはならないということなのです。ちょっと前に D-project で流行語になっていた「スキルよりウィル」または「ウィルを支えるスキル」ということでしょうか。